

会議録（第2回江府町立図書館協議会）

【日時】平成29年7月4日（火）

午後1時30分から3時00分まで

【場所】防災・情報センター 2階研修室

<会議出席者>

【委員】

佐々木委員長、加藤副委員長、小林委員、黒見委員、遠藤委員、前川委員

【事務局】

図書館：長岡司書、加持谷司書、中尾司書

教育課：川上課長兼図書館長、山本主査、道下主幹、川上主事

1 開 会 →（事務局進行）

会長挨拶 →（佐々木会長）

お忙しい中、また、雨の中ありがとうございます。江府町図書館は、他町に比べ、やらなければいけない事がたくさんあるので、みなさんの知恵をいただき、より良い図書館に、江府町の図書館はいいなあと言ってもらえるような図書館にしたいと思います。

2 協 議 →（会長進行）

（1）図書館利用促進の取組について

- ・幼児から大人までの利用率向上の取組
- ・保育園、学校との連携
- ・複合施設のメリットを生かした取組 等

（会 長）早速協議に入ります。図書館利用促進について、どこから手をつけて良いのかわからないのが実感です。あれもやりたい、これもやりたいという事が多く、将来に向けての糸口がつかみにくいです。今、江府町で生活している子どもからお年寄りまでが、どうすれば図書館を利用しやすくなるのか考えたいと思います。

まずは、子どもからお年寄りまでの利用率の向上。県立図書館で長く待たなければいけない本がすぐ借りられたという事があり、江府町をほめて貰えたのか、利用者が少なすぎるということなのか。なぜそんなに利用率が低いのか。他の町では多くの利用者があるそうです。ただ小説を読むだけじゃなくて、農業をしたい、パッチワークをしたいなどの利用もあると思います。図書館利用について、「あれがしたい」とかいう目的をもって借りられることはありますか。パッチワークなど。

（司 書）パッチワークはありませんが、林業・農業はあります。取り組んでみたくて探しに来たという人もおられます。

（会 長）育児書などはどうですか。

（司 書）育児書と絵本のコーナーを隣り合わせにしており、絵本を借りに来たら目に入るようにしているので、その流れで利用される事はあります。

（会 長）図書の貸し出し利用について、司書さんの感触はどうですか。町民が3,000人もいますが。

- (司書) 10冊には遠く及びませんが、年間で町民一人あたり2冊は出ます。
- (会長) 日野町は10冊ですか？
- (委員) 7.6冊ですね。三朝が10冊です。
- (会長) 10冊だと鳥取県内でも高い利用率ですね。江府町図書館を利用しにくい点はどう思われますか、遠藤委員さん。
- (委員) 本の揃い、数が少ない。スペース的に限りがあるからというのが一因だと思います。絵本や子ども向けの本が多いのではないかとも思います。その理由は、「チロル文庫」からの寄付があって、絵本の数が多いのだと思います。子どもをきっかけに伸ばせると思いますが、楽しいイベントを行ってみたりするのも良いのではないのでしょうか。本の種類を広く集めて紹介したり、町報を活用したりするのも有効だと考えられます。以前はよく掲載されていましたが、このごろ見ない気がします。
- (会長) 今現在も町報には掲載していますよね。新冊紹介などが良いと思います。
- (司書) 掲載をしていますが、以前は1ページだったものが、今は半ページとなっています。
- (会長) 前川委員さん。利用率が上がらない原因についてどう思われますか。
- (委員) 三朝、日吉津の図書館に行ってみた事がありますが、本の貸し出しが多いようには見えませんでした。日吉津はできたばかりで本の数も少ないのに、なぜそんなに利用冊数が多いのか分かりません。
- (会長) 三朝の図書館についての状況を説明してください。
- (委員) 三朝の図書館は、鳥取県中部では比較的早いころに造られ、かなり良い建物で、子どもの本を充実させて造っています。中部の人からは「三朝にはあんなに良い図書館があるんだなあ」と言われており、倉吉や他所よりも評価が高いです。今でも町外からの利用が多く、中部のシンボルとなっています。また、小学校に近い（立地が良い）ので、バス待ちの児童の利用もあり、恵まれています。日野町は本を持って歩いています。出前図書など。黒坂で検診があるときにはお年寄りが関心を持ちそうな図書を持って出て、その場で貸出をしたり。あとは「よらいや図書館」といって、町中に本を置いておくポイントをつくっています。図書館に行かなくても本が借りられるシステム作りが進んでいます。図書館で待っているというよりは、外に攻めています。日吉津（10冊）は住宅密集地で、歩きや自転車で行ける事が利用冊数に大きく影響しています。同じ3,000人でも利用しやすい立地である事が日吉津との差。全員が利用者になりえます。ほぼ何もせずにいるよりは、他の図書館は色々企画をして攻めています。
- (会長) 日野町の職員は何人ですか。
- (委員) 5人だと思いますが、中尾さんどうですか。
- (司書) そうだと思います。
- (会長) 職員の数からして、江府町では学校も受け持ちながら3名で行っており、江府町で出前は難しいですね。
- (委員) 職員の数などは予算があるので、今の予算の中でできる事から考えなくてはいけないと思います。利用促進について思ったことを言いますと、個人的に面白いと思ったのが「ぬいぐるみを預かって、ぬいぐるみが図書を楽しんでいる様子を子どもに伝える」という、ぬいぐるみを活用した図書館が大阪の摂津にあるという話を聞いたことです。ぬいぐるみが本を読んでいたりと、貸出をしたり。子どもが馴染んでいるものが図書館に馴染んでいる様

子を伝えていました。子どもころから本を読むのが嫌いだったけど、本を読んだら感想を伝えたい気持ちはあります。読書会・ビブリオバトルなども面白いと思います。また、今大阪でやっているイベントで面白いと思ったのが、本のタイトルだけ紹介し目次に添って著者が何を言いたいのかを想像して発表するもの、前回の話の中でもあった古本を持ってきての交換など眠っている本を動かす、庁舎の問題もあるので、島根・鳥取の中山間地域の建物や税の使われ方などの資料を用意・展示して、庁舎について考えるきっかけづくりをするのも良いと思います。

(会長) 庁舎は町が意見収集をしているので、そちらにおまかせを。今の意見の中でいろいろ出ましたが、年間の図書予算はいくらありますか。

(事務局) 本の購入に100万円、雑誌の購入に30万円です。去年の本の購入費が140万円。

(委員) 知恵を働かせて、予算の範囲内で検討しなくてはいけないと思います。

(会長) なかなか沢山の本を購入するのは難しいので、寄付などを募るのも良いのではないのでしょうか。職員の数が足りないで、日吉津や日野のようにはできません。利用してもらえ魅力ある場所にしていかなければ。魅力ある本も入れているので、もっと利用してほしいと思います。課題を整理すると①人手が足りないで、日吉津や日野のように活動できない。②資料費が少ない。他に利用率があがらない理由は何にあると思いますか。

(委員) 前の話に戻りますが、先程私が庁舎についてと言ったのは、考えるきっかけや資料の提供、準備の仕方として例を挙げただけであり、新庁舎についてどうこうというより、それを考えるきっかけになる資料が配架されているとありがたいという意味です。委員会から議会に質問したいというわけではありません。

(委員) 前川さんが言われたいのは、パブリックコメントを求めるときに、他市町村の例があると意見が言いやすいので、そういう資料を配架して置くということも図書館の役割。これまでの議論や議会録などが図書館で資料として閲覧できるようにしたら良いのではないかということですよ。

(委員) そうです。

(会長) いろんなことをしようとすれば、お金もかかるし難しいです。

(委員) 県立図書館で21～22人待ちの人気図書があります。県立図書館は県民全体を対象としていますが、町図書館は3,000人の町民が対象です。そのため人気図書に対する要求が異なるのは当たり前で、そのため町ではすぐ借りられます。これはプラスです。話題の本を比較的読みやすい環境であり、借りられるのは良い事。若桜の図書館も利用率が少ないですが、いつでも最新号が読めます。そういう状況というのはPRしていくべきで、マイナス要因ではありません。

(会長) そういう人気図書が借りやすい状況なのは、発信していかないといけません。よその町村から借りに来る方はいますか？

(司書) おられます。また、「借りやすいから」ということで定期的に通われる方はいます。

(委員) 何人ですか。

(司書) 顔を覚えられる程度(の人数)です。

(会長) 学校からの「もっと利用したいけど」というような要望はありますか。

(委員) 町と学校で選書が重ならないようにしています。重ならないようにする事で、必要な時は回せばよいので、他の本を買う予算として有効活用できるよう司書さんには教えてもらっ

ています。小林委員の資料の中にもあるように、「図書館は小説を借りる所」という意識が根強いです。農業の本などを借りるということなど専門書を借りたり、それを利用して調べ物をしたりすることがどれだけ町内に浸透しているのでしょうか。町報の中で新しい本や人気の本を紹介するのも大切ですが、「こんなふうに図書館が使えますよ」というようなテーマを設けるのも大切なのは。

(委員) 子どものリクエストは良く出るのですか。

(委員) 学校からのリクエストを司書さんに渡しています。同じ司書さんが担当として学校に来てくれるようになってから、リクエストが増えています。

(委員) 子どもたちは本をよく読みますか。

(委員) よく読んでいます。

(会長) 長文を読み、筆者の意図を理解するのは大切。(特に小学校で) 授業で取り上げたり、先生の話の中で本が好きになったりすることがあります(経験上)。小説にとどまらず、伝記などでも紹介や読み聞かせをしてみても。小学校は読み聞かせがありますよね。町図書館でも幼児向けにありますね。

(委員) 読み聞かせだけでなく、小学校は朝読書(10分間読書)もありますね。

(委員) 自分たちで読書の感想を発表したりするのですか? 本の紹介とか。子ども達の傾向を知るのには大切じゃないかと思えます。

(委員) それを求める取組ではありません。学習に取り入れる事もありますが、自分の好きな本を継続して読むことに重きを置いています。

(会長) 朝読書では感想文を書かせない。その理由は、それが基で(読書を)嫌いになるためです。

(委員) 評価されるどころよりも、感想を話す事も大切なのではないのでしょうか。

(委員) 話すのとは違いますが、鳥取県立図書館でも使用している図書通帳を使って、そういう形で記録を残しています。

(会長) 江府小学校の生徒は学校と町図書ではどちらの利用が多いですか。

(司書) 学校だと思います。

(委員) 子ども達が読書をする事は、学力を高めるのと、楽しむのと分けるのが良いのでは。

(委員) 楽しませることが一番の魅力ですが、両方必要です。それぞれの役割があり、読書センター、学習センター、情報収集センターの3つの役割があります。課題となるのは、学習に対して必要な資料をどれだけ提供できるか。「この情報が本当に正しいものなのか」を判断し、リスク回避をしていくためにも情報は必要。情報収集力、活用力を養い、ネットだけでなく図書からも集められる力をつけてほしいと思えます。

(会長) 他町からでも本を借りに来るといっても、情報が伝わらないとわからないこと。職員の数的にも、情報提供をしたくても準備等のゆとりがないのでは。(資料費含めて) 予算が少ない→職員が少ない→情報が出せない。予算を増やしたからといってすぐ効果が出るとは限りません。教育行政の経験がある加藤委員さんいかがでしょうか。

(委員) 利用率向上には町民のニーズの把握が必要だと思います。小・中は学校で対応できますが、町立図書館は保育園までと高校生以上の町民も対象。一番ニーズがある本を充実させる事が大事なのは。大活字の本が増えてきたので、そのニーズがあるかもしれません。本当に読みたいマニアックな本は購入するのがベストだと思います。「自分が持っているけど、もういらない。」という本の交換ができる日を設けるのはどうでしょう。時代小説など、

回毎にテーマを決めて。蔵書を保管できるスペースもないでしょうし。また、郷土資料の利用率が低いのは、みんなが持っているからではないでしょうか。

(委員) 寄贈の本の有効活用については、それを整理することが大変だし人件費コストがかかっています。偏った本が集まってくるので、交換なら人が集まるし、良いのではないのでしょうか。伊丹市では替え本クラブというものをやっていて、利用するには1冊持ってきたら1冊持って帰れます。これが本の循環にもなるし、コストも低く押さえられます。

(会長) 米子図書館では、11月に開催される図書館祭りの中で、交換市を年に一回開催しています(目玉イベント)。大会議室に並べて、2日間分に分けて仕分けします(全部置くと、二日目分がなくなってしまうので)。いらなくなった本を持ってきてもらいます。「20年前の百科事典」、「近代文学全集100冊」とか、持って帰りにくい本を持ってこられた場合は断ったこともあります。無制限に持ってこられると困るので選別しています。将棋の本や、保存が良い昔の本などを無料で交換しています。島根県の方からも段ボール箱で持ってこられます。でも、これを準備する職員の数がいます(何千冊とあるので)。ボランティアも募って行っています。誰が何冊持って帰ったかについても記録しています。

(委員) 時間や予算が無くて、したいけどできない事を司書さんに聞きたいです。

(会長) 司書さんお願いします。

(司書) 小さい子ども向けのイベントは定期的にやっています。少人数ですが参加者がいます。子ども向けのイベントが定着してきたので、次は大人向けのイベントに取り組んでいきたいです。時間とか予算が無くてできないというよりは、これから取り組んでいくところです。子ども向けの創作教室は実施しているので、次は大人向けで実施したいと思います。子育て世代で「子どもの入学バックを作りたいな。」と思っている人に、年の近い講師の人を迎えてやりたいと考えています。公民館との連携(工作など)もしていきたいと思います。これはお金のかかる事ですが、雑誌のタイトル数が少ない(現在11タイトル程度)ので増やしたいです。

(会長) どういう雑誌を増やしたいです。

(司書) 週刊誌、中高生向けファッション誌、婦人誌、料理誌、生活誌ばかりで、ビジネス誌や現代農業などの農業関係などがありません。

(会長) 雑誌は良く読まれますね。でも、毎月だから高い。

(委員) 前住んでいた町では盗難もありました。

(委員) 県立図書館でも切り取りや盗難もあるため、カウンターに置くなどの措置をしています。

(司書) 江府でも盗難もあったし、割引券が切り取られることもありました。

(委員) 3,000人の町民なので我慢しないといけない部分もありますが、江府町の図書購入費120万円というのは圧倒的に少ないです。日南340万、日野420万、日吉津430万円はとってあります。利用者は本についてくるのですが、日野町は財政が厳しい時でも350万円を切ることはありませんでした。優先順位をどこに置かは町が決める事です。

(会長) 他にありますか。

(委員) あと2回の会でまた意見を聞けばよいのでは。

(司書) ブックスタートを保育園では続けて行っていますが、実際町立図書館として関わっていないので、今後町立図書館としても支援していきたいと思います。

- (委員) 郷土資料はみんなが持っていると言われましたが、移住者にとっては必要（地元の方には各戸に配布されているというが）。クローズアップすることで馴染んでいくきっかけになるのではないのでしょうか。
- (会長) 江府町の歴史の本はどれくらいありますか。
- (司書) あるけれど、数は少ないです。
- (会長) 元々の数が少ないです。
- (委員) 初めて江府町に来て「江府町に住みたい」と考えてもらえるきっかけづくりや、江府町を知る事のできる本のリスト（タイトルと概要）のようなものを作るのも、図書館の仕事だと思います。また、歴史書と一言と言っても、簡単なものから難しいものまであるし、商業や農業や気候などもあるので、初心者から玄人向けまであります。リストにわかりやすくまとめられていると図書館に来た人にも配布もできるし、役場でも移住を考えている人にも配布できます。そうすると、検索する前段階で求めている本を知る事ができます。
- (委員) アメリカには、ウェルカムパッケージ的なものがある。例えば初心者に対して「ここに住むならこういう事を知っておかないといけないよ」という内容をまとめたものがあると聞きました。こういうのがあるととても親切だと思います。
- (委員) 学校の教員もいろんな事を教材にして子ども達に伝えていくのが大切だと思います。学校図書でも郷土資料を集めてもらっています。「ざっくり知りたい」という子ども達に伝えられる資料（図書リスト等）があると良いと思います。郷土資料というのは集めにくい資料で、とても詳しい職員のおかげで充実していますが、町立図書館の支援も必要です。
- (会長) 郷土資料館もあるし、県外からも興味のある人はたくさん来られるので、パッとわかる資料があれば良いのでは。
- (会長) 保育園と学校との連携も考えていけたら。ブックスタートの支援。複合施設のメリットを生かした点について。防災センターの中に図書館が居候していますが、これは第1回目の協議会の時に「メリット」と考えていこうとなったので、今後はそれを活かした取組を考えていきたいと思っています。小学生のバス待ちの時間を有効に使ってはどうか。小学生の時間待ちは本を借りますか？
- (司書) 借ります。保育園から図書カードIDを持っています。
- (会長) ここの施設は防災情報センターであり、教育委員会もあります。公民館機能も図書館機能もあるので、それをうまく利用できれば。
- (委員) 例えば、今日この施設で行われる教室や会議を意識して、そこで行われる内容と関連した本を並べてみる。更には部屋まで持って行く。せっかくこの施設に来る人がいるなら、興味関心を引き付けて利用してもらえるとよいと思います。
- (会長) 明德学園の学生ですが、懐かしい本があれば借りると思います。
- (委員) 講演会の内容に関連する本、理解を深めることのできる書物を配架するのは良いのでは。
- (委員) 本のリストみたいな物を目につくところに置くのは良いのでは。例えば農業の会があるなら、「儲かる農業」の本でも。鳥取県立図書館にある本もそのリストに入れてもいいのではないのでしょうか。
- (委員) 全部のイベントでは難しいですが、会議に合わせてテーマを定め、予め県立図書館にある図書をピックアップして配架してもいいのではないのでしょうか。何か月に1回でもいいので。通常の会ではできる範囲で行ってみたり。どこで引っかかるかわからないので、ブ

ラッシングを兼ねて。

- (委員) 江府小は、放課後子ども教室（の利用）が多いですが、家が近いと防災センターまで来ない子どももいます。また、長期休暇などの時期、たとえば夏休み子ども教室等との連携がうまく取れていません。一昨年から子ども教室の担当さんに、「空いた時間などで図書館の利用をしてもらえないか。」とお願いしているが実現していません。今年はぜひ活用してもらえるようにしたいと思います。町の図書館を含めて、子ども教室のドアから家のドアにするのではなく、間で図書館の利用をしてもらえるよう、子ども教室と連携していきたいと思います。
- (委員) 子ども自身が読みたい本を提供できるような場を作ってあげればよいのでは。
- (委員) 図書館から棚落ちした本（比較的きれい）を、子ども教室に回して、そこで利用する子どももいますが、その本は借りられません。子どもが読みたい本を自由に借りられるようにしたいです。
- (委員) 対応などありますよね。ここは何時まで職員さんがいるのですか。
- (司書) 早番は午後5時15分、遅番は午後7時まで。午後5時15分以降は1名になってしまいます。
- (委員) 子ども教室には4名ほど職員の方がついていて、夏休みは増えますよね。その方に協力を仰いでなんとかできれば。
- (委員) 智頭のすわ保育園の建て替えの時に、智頭の図書館が建築に相当入れ知恵を行って、玄関にある待合室に図書コーナーをつくりました。待合の時に必ず目に留まるし、手に取って中を眺めて借りてもらえます。施設的には恵まれていませんが、そういう工夫がされています。
- (委員) なぜ子ども教室と学校図書がうまく連携が取れていないのでしょうか。
- (委員) こちらとしては再三依頼をしているし、対応をする旨を話していますが、定期的にそういう（図書館を利用してもらおう）時間を作るのは難しいとの回答でした。
- (委員) 工夫すればうまくいくと思うのですが。

(2) 次回協議の柱について

- (会長) 次回の柱は、今日話した内容から課題を整理し、進めていきたいと思います。事務局はまとめをお願いします。
- (委員) 1回目、2回目の話で出た内容を見られるようにしてほしいと思います。

3 その他

第3回の会について

- (事務局) 次回は、8月終わりから9月の初めで2階研修室が空いているとき、23、25、28～31日、1日～8日のところで開催したいと思います。

<日程確認>

- (会長) 欠席ゼロは難しいので、多くの人が出られる日にしたいと思います。
- (事務局) 欠席の方にも確認をして日程を調整させていただきます。

4 閉会